

第 22 期業績のご報告

(平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

平成 30 年 9 月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度のわが国経済は、米国の貿易政策や天災等によるリスクを抱えつつも緩やかな回復基調が持続しています。少子高齢化による人手不足は大きな影響を及ぼしつつあり、人件費の増加が企業の収益下押し要因となる一方、雇用・所得環境は改善が続き実質所得が堅調に拡大しています。企業部門は、合理化・省力化投資等を中心とした設備投資が増加傾向にあり、家計部門においても雇用・所得環境の下支えにより緩やかに消費も持ち直す見通しとなっていることから、今後さらに実感の伴った景気回復へと変化していくことが期待されます。

このような状況の中、駐車場業界におきましては、慢性的な駐車場不足による都市部を中心とした高い駐車場需要はあるものの、地価の高騰によるマンション・宿泊施設など駐車場以外への転用は依然として活発であり厳しい環境となりました。

このような環境のもと、当社は積極的な新規駐車場の開設及び新規得意先の開拓に努めて参りました。また、一昨年より開始したスマートフォンでの駐車場利用料金決済サービス、法人一括請求サービスの対応駐車場を全国で積極的に拡大いたしました。さらに、業務の効率化と品質改善を目的とした基幹業務システム及びコールセンターシステムへの投資を行いました。

以上の結果、売上高は、6,100,543千円(前期比98.3%)、営業利益は212,411千円(前期比92.2%)、経常利益は165,039千円(前期比95.4%)、当期純利益は73,400千円(前期比81.8%)となりました。

事業区分別の業績は以下のとおりです。

【コインパーキング(以下CP)事業】

CPシステム運営事業では、新規駐車場においては、積極的な営業活動を行い開設を進めましたが、昨冬の記録的な豪雪の影響で長期間にわたり営業活動が妨げられました。その結果、売上高2,930,296千円(前期比98.8%)に留まりました。

CPシステム販売管理事業におきましては、都市部を中心とした駐輪場開発が好調であった一方、大手CP運営会社様数社が地価高騰などを背景に新規開設から既存駐車場改善に注力された影響があり、実績は伸び悩みました。また、CPシステム販売管理事業におきましても、開発停滞の影響により同様に推移いたしました。その結果、売上高2,917,856千円(前期比97.5%)となりました。

これらの結果、同事業全体の売上高は、5,848,153千円(前期比98.2%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

プロパティマネジメント事業におきましては、「満室経営」を目指し物件の稼働率向上に注力いたしました。その結果、売上高239,821千円(前期比100.5%)となりました。

事業別の売上高は次のとおりであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
コインパーキング事業	5,848,153千円	5,955,944千円	98.2%
プロパティマネジメント事業	239,821千円	238,716千円	100.5%
その他	12,568千円	10,743千円	117.0%
合計	6,100,543千円	6,205,404千円	98.3%